

工業部会通信

(発行)
 かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239
 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
 KANA KEI

建築家最高峰の賞に

湘南デザインと谷津建設 工業の可能性を示す

工業部会と建設業部会の企業が手を組み、完成させた「江ノ島・湘南ヨットハウス」が、国内の建築家に与えられる最高峰の賞とされる日本建築学会賞2016の作品選奨を受賞した。建設業と製造業のコラボで難工事を克服。「驚くほどの施工精度で自由曲面が実現されている」と評された。東京五輪でセーリング競技のメイン会場として期待される。

湘南港ヨットハウス

設計は横浜市のオンデザインパートナーズが手掛けた。施工にあたったのは中小ゼネコンの谷津建設(相模原市中央区)。



複雑な形状の屋根が特徴の施設



正面から見た湘南港ヨットハウス

14年4月に完成。白を基調にしたデザインで地上2階建て。2000平方メートルを超える屋根は、湘南の美しい波とヨットの帆をイメージした。複雑な3次元曲線で

会員交流大会を開催 7月26日に産業会館 地元のネットワーク作りに

工業部会会員の情報やネットワークづくりを目的とした「会員交流大会(工業版)」が7月26日の午後6時半から、市立産業会館で開かれる。相模原の工業人たちに垣根を越えた交流を持つ

た。建築は「X」と「Y」の世界。つまり平面図と立体図を用いて工事する2次元。そこで、工業部会所属の試作メーカー、湘南デザイン(同市



湘南の波とヨットの帆をイメージした屋根

これまで工業部会の活動に参加したことがない初めての会員の参加を歓迎。それぞれ関心があるテーマについて参加者と話せる「もっとと交流シート」を活用する。ビジネスだけでなく趣味や生活の話なども話せる。主催は工業部会GETプロジェクトとKIZUNAプロジェクト。当日は青山学院大学理工学部・経営システム工学科の松本俊之教授による講演も行われる。同講演は「インダストリー4.0」がテーマ。本場のドイツの実態を報告する。参加費は一人2000円。ただし講演は無料。問い合わせは産業振興課・高井042(753)8136まで。

仕上がっているのが特徴だ。もともと、1964年の東京五輪会場となった旧ヨットハウスの老朽化に伴う建て替え工事だった。建築は「X」と「Y」の世界。つまり平面図と立体図を用いて工事する2次元。そこで、工業部会所属の試作メーカー、湘南デザイン(同市

緑区)と異業種連携。建設業界では普及していない「3Dプリンター」を使って、建築模型を仕上げた。100分の1という美しい「モデリング」は、難工事克服の大きな武器となった。同施設の完成によって、モノづくり技術と建築技術を融合させた、いわば「3D建築」とも呼べる新しいスタイルの確立につながった。一方、製造業にとっても得意技術が建築分野にも生かせるとの可能性を見いだした。谷津建設の谷津弘社長は「今後もモノづくり企業とのコラボを進め、建設業の新しい可能性を探っていきたい」と話している。



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会